

令和5年度 島根県小中学校理科教育研究会役員表

会 長 新田 紀久		副 会 長 難波 真章・足立 紀佳		監 査 員 古藤 康則・三島 伸仁		
常任理事 難波 真章・渡部 哲治・毛利 伸・遠藤 幸子・村上 浩一						
支 部	理 事 (支 部 長)		副 支 部 長		事 務 局 長	
	氏 名	勤 務 校	氏 名	勤 務 校	氏 名	勤 務 校
松 江	新 田 紀 久	津 田 小 学 校	齋 藤 由 美 子	大 庭 小 学 校	金 坂 悠 志	津 田 小 学 校
安 来	難 波 真 章	赤 江 小 学 校	田 中 修 和 修 胤	第 一 中 学 校	大 坂 泰 司	宇 賀 荘 小 学 校
仁 多	古 藤 康 則	高 尾 小 学 校	深 田 剛 生	横 田 小 学 校	狩 野 元 基	高 尾 小 学 校
雲 南	三 島 伸 仁	西 日 登 小 学 校	高 山 橋 敦 子 泰	寺 領 小 学 校	三 島 康 紀	西 日 登 小 学 校
出 雲	渡 部 哲 治	河 南 中 学 校	加 藤 道 夫	稗 原 小 学 校	竹 本 謙 二	河 南 中 学 校
大 田	毛 利 伸	久 屋 小 学 校	石 田 雅 裕	大 森 小 学 校	石 田 雅 裕	大 森 小 学 校
飯 石	足 立 紀 佳	頓 原 中 学 校	久 大 家 野 秀 高 幸 裕	赤 来 中 学 校	岡 城 孝 直	頓 原 中 学 校
浜 田	小 林 信	三 階 小 学 校	小 野 田 貴 司 憲	金 城 中 学 校	賀 戸 幸 久	三 階 小 学 校
江 津	樋 野 淳 巳	渡 津 小 学 校	近 重 和 幸	渡 津 小 学 校	中 祖 千 穂	渡 津 小 学 校
邑 智	石 田 和 範	川 本 中 学 校	寺 井 弦	市 木 小 学 校	鳥 居 祐 志	川 本 中 学 校
益 田	遠 藤 幸 子	中 西 中 学 校	小 石 伸 江	豊 川 小 学 校	高 橋 孝 道	中 西 中 学 校
鹿 足	澤 江 健	木 部 小 学 校	塚 本 達 治	柿 木 中 学 校	澤 江 健	木 部 小 学 校
隠 岐	村 上 浩 一	西ノ島中中学校	山 根 大 輝	西 郷 中 学 校	古 木 秀 典	西ノ島中中学校

【本部事務局】 奥出雲町立横田小学校 〒699-1832 仁多郡奥出雲町横田1025-1 TEL0854-52-0165 FAX0854-52-3500

事務局長	深田 剛生	(横 田 小)
事務局次長	寺本 佑二	(宍道中大野原分校)
事務局次長	齋藤由美子	(大 庭 小)
研究推進委員会 委員長	関野 淳也	(長 久 小)
副委員長	野崎 朝之	(附属義務教育学校)
事務局	吉木 勇氣	(附属義務教育学校)
委員	宮下 健太	(附属義務教育学校)
委員	鎌田 祥史	(出 雲 二 中)
委員	井上 裕由	(平 田 中)
委員	谷口 将人	(吉 田 中)
委員	吉岡 知恵	(東 出 雲 中)
委員	大國 寛和	(仁 摩 小)
委員	中村 真子	(八 雲 小)
委員	高梨 淳貴	(持 田 小)
会誌担当	大國 寛和	(仁 摩 小)
会誌担当	谷口 将人	(吉 田 中)
会報委員長	鳥 多喜子	(秋 鹿 小)

小学校学習評価委員会委員長	錦織あすみ	(附属義務教育学校)
会計	金岡 啓子	(古 志 原 小)
委員	高梨 淳貴	(持 田 小)
委員	原 啓一朗	(城 北 小)
委員	持田 洋之	(生 馬 小)
委員	藤井 和幸	(中 央 小)
委員	太田 直希	(恵 曇 小)
委員	澄川 明子	(玉 湯 小)
委員	栗山 和輝	(来 待 小)
中学校テスト等編集委員会委員長	寺本 佑二	(宍道中大野原分校)
会計	吉岡 知恵	(東 出 雲 中)
委員	角田 颯	(鹿 島 中)
委員	宮下 健太	(附属義務教育学校)
委員	板野 祐香	(湖 東 中)
委員	沖田 友輔	(松 江 三 中)
島根県科学作品展運営委員会委員長	曾田 翔平	(出 雲 一 中)
委員	錦織 清子	(美 保 関 小)
委員	岡 雄輝	(河 南 中)

支 部	小 学 校 学 習 評 価 委 員		中 学 校 学 習 評 価 委 員	
	氏 名	勤 務 校	氏 名	勤 務 校
松 江	錦 織 あ す み	附 属 義 務 教 育 学 校	寺 本 佑 二	宍 道 中 学 校 大 野 原 分 校
安 来	桑 原 富 美 子	十 神 小 学 校	澤 田 遼	第 一 中 学 校
仁 多	狩 野 元 基	高 尾 小 学 校	渡 部 康 弘	仁 多 中 学 校
雲 南	高 橋 敦 子	寺 領 小 学 校	森 田 圭 介	三 刀 屋 中 学 校
出 雲	板 倉 昌 弘	高 浜 小 学 校	平 川 尚 樹	第 三 中 学 校
大 田	藤 井 美 帆	朝 波 小 学 校	能 美 草 太	大 田 西 中 学 校
飯 石	景 山 友 香	頓 原 小 学 校	久 家 秀 幸	赤 来 中 学 校
浜 田	武 谷 元 立	石 見 小 学 校	寺 戸 真 一	浜 田 東 中 学 校
江 津	梅 谷 真 実	桜 江 小 学 校	橋 本 健 哉	立 江 津 中 学 校
邑 智	門 脇 智 哉	矢 上 小 学 校	大 埜 ひ ろ み	石 見 中 学 校
益 田	勝 部 尚	吉 田 小 学 校	門 脇 慎 也	益 田 東 中 学 校
鹿 足	島 田 謙 一	木 部 小 学 校	川 崎 哲 也	吉 賀 中 学 校
隠 岐	丸 山 健 太	海 士 小 学 校	藤 井 勇 人	都 万 中 学 校

島根県小中学校
理科教育研究会

会 報

No.106

R5. 8. 1

『らんまん』から学ぶ科学的な探究

島根県小中学校理科教育研究会
会長 新田 紀久

今年度は、いよいよコロナ禍からの転換となり、様々な教育活動をどのように復活させていくのか各学校の大きな検討事項となっています。コロナ禍前と同じ形に着地するのではなく、リニューアルした形でどう着地することに腐心されていることと推察いたします。

さて、現在NHK連続テレビ小説では、「らんまん」が好評放送中であります。このドラマは、ご存知のとおり植物学者の牧野富太郎先生をモデルとし、人気俳優の主演で、フィクションのドラマオリジナル作品として放送されています。

牧野先生は、「雑草という草は無い」という名言を残されたことから分かるように、ご自身の強い探究心により、所謂学歴がなくても日本の植物学の父と評されるまでの世界的な科学者となられた方があります。また、学校というシステムがなくても科学的な探究が生まれてくることを証明した方でもあります。この牧野先生の研究は、自然が探究の対象として奥深いことや、探究の方法は個性があり多様である、というメッセージが隠されているように思います。

一方で、学校における理科学習の客観的な指標としては、昨年度、全国学力・学習状況調査が、国語、算数・数学に加え平成30年度以来久しぶりに実施されました。令和2年度が中止になったため、大きく間があきましたが、島根県の理科の状況については、大きな変動はありませんでした。ただ、小学校理科と中学校理科の状況において私が注目したことは、小学校理科の課題となった「仮説と結果を照らし合わせたり、根拠となる結果を取り出したりして、考

察することに課題がある」ことと、中学校理科の課題となった「予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する」についてです。これは、本県の理科学習における問題解決や探究の過程のあり方について、再検討を投げかけているように感じています。

つまり、「比較」「関係付け」「条件制御」「多面的な思考」などといった理科の考え方を、意識的に働かせるための活動の繰り返しの大切さを改めて問いかけているように感じます。そして、自然に対して漫然と関わるのではなく、見通しをもって意図的に事物・現象に関わる中で、妥当性を検討したり、変数を抽出したりして、科学的に解決することにもっと重点をおいていく必要があるのかもしれませんが。このことは、まさしく牧野先生が大切にしておられた探究心を基盤とした、スパイラルな思考過程そのものと考えます。

言うことは易くなかなか難しい営みではありますが、昨年度大きな成果を残した県理研益田大会を礎に、令和7年度の安来大会に向けて、本研究会の研究推進委員会が中心となり、関係者の皆様と連携させていただければと考えております。

今年度も、研究推進はもちろんですが、科学作品展、学習評価委員会等の一つ一つの事業を子ども達のために、会員の皆様の力をいただきながら取り組んでまいりたいと思います。そして、その成果が理科教育にとどまらず、島根県の学校教育の振興へとつながるようにと願っております。

理事会報告

島根県小中学校理科教育研究会理事会は、5月2日（火）に島根県市町村振興センターを会場に開催されました。

1. 令和4年度県理研事業等報告

- (1) 事業報告
- (2) 本部会計・積立会計決算報告
- (3) 小学校学習評価委員会事業・会計決算報告
- (4) 中学校理科テスト等編集委員会事業・会計決算報告
- (5) 島根県科学作品展・日本学生科学賞島根県展事業・会計決算報告～会計監査報告～
- (6) 研究推進委員会事業報告
- (7) 会報事業報告
- (8) 第25回県理研益田大会開催報告
- (9) 「島根の自然は生きている」(仮)編集方針・概要

2. 令和5年度県理研役員改選

3. 令和5年度県理研事業計画等審議

- (1) 事業計画
- (2) 予算案
- (3) 島根県科学作品展・日本学生科学賞島根県展開催計画〔大田、邑智支部〕
- (4) 研究推進委員会事業計画
- (5) 小学校学習評価委員会事業計画
- (6) 中学校理科テスト等編集委員会事業計画
- (7) 会報事業計画
- (8) 各種大会発表割り当て
- (9) 諸理科研究大会・科学作品展の開催と割り当て
- (10) 役員報告についてのお願い
- (11) その他

令和4年度 県理研事業報告

R4

5. 6 ○県理研理事会
5. 27 ○県教研理事会・評議員会
(サンラポーむらくも)
6. ○科学作品展に関して依頼・挨拶
6. 25 ○全小理研理事会〔リモート開催〕
8. 1 ○会報第104号発行
8. 9 ○第69回全国中学校理科教育研究大会三重～11大会(四日市市)
8. 19 ○理科学習評価検討委員会小中合同研修会・テスト等編集(島根県市町村振興センター)
10. 14 ○第75回島根県科学作品展
- ～16 ○第66回日本学生科学賞島根県展(伯太中央交流センター)
〔表彰式は中止〕

10. 21 ○第25回島根県小中理科教育研究大会益田大会(高津中学校、益田小学校)
11. 10 ○第55回全国小学校理科研究協議会研究会香川大会(高松市、丸亀市、善通寺市)
11. 17 ○第22回中国地区小学校理科教育研究大会山口大会(下松市)
- 第58回中国四国中学校理科教育研究大会山口大会(下関市)

R5

1. 13 ○常任理事会打合せ(津田小学校)
1. 27 ○常任理事会
(島根県市町村振興センター)
○会報第105号発行
3. 28 ○令和4年度県理研会計監査会
(津田小学校)

第67回日本学生科学賞島根県展 第76回島根県科学作品展開催について

趣 旨 児童、生徒の科学的な研究意欲を高め、創造力をのばすとともに教職員の創造的な指導力を向上することによって理科教育の振興を図る。

主 催 島根県小中学校理科教育研究会、島根県高等学校理科教育協議会、大田市学校教育研究会、邑智郡教育研究会、読売新聞社

後 援 島根県教育委員会、大田市教育委員会、川本町教育委員会、美郷町教育委員会、邑南町教育委員会、島根県産業教育振興会

展示期間 令和5年10月21日(土) 9:00～16:00
～10月22日(日) 9:00～12:00

会 場 国立三瓶青少年交流の家
(大田市山口町山口1638-12)

審査対象 小・中・義務教育学校・高等学校児童・生徒の科学的創作品、研究物

審 査 中央審査委員会を構成して、別に定める審査基準により10月20日(金)に行う。

出品方法

- (1) 島根県小中学校理科教育研究会の支部で選考のうえ出品すること。また、高等学校の作品については、当該学校から直接出品すること。
- (2) 作品の送付は、搬入・搬出日時を指定し、作品ごとにまとめて支部から送付すること。

返送は着払いで行うので、宅配用紙に記入のうえ、出品作品に同封すること。作品を梱包した時の写真を、必ず同封すること。

※それ以外の方法を希望する場合は、別途大田市立大森小学校に文書又はe-mail(to-ohmoris@ed.iwamigin.jp)で連絡すること。

搬入指定日時：令和5年10月18日(水)13時～15時

搬出指定日時：令和5年10月22日(日)15時～17時(受付の都合上、厳守すること)

送付先：〒694-0002 島根県大田市山口町山口1638-12
国立三瓶青少年交流の家 科学作品展係
電話：0854-86-0319 FAX：0854-86-0458

- (3) 出品、返送についての費用は、島根県小中学校理科教育研究会本部では負担しない。
- (4) 出品物には次の様式による出品票を添付すること。(様式は要項参照)

- ① 応募作品整理の便宜上、出品票の区割線を小学生の部は黒色、中学生の部は青色、高校生の部は赤色とする。
- ② 出品票は、各作品の右下端に1枚ずつ必ず添付する。
- ③ 応募作品が2個以上で構成される場合は、「個数番号」欄にその個数とナンバーを記入する。(例「3の2」=3個のうち2番目の作品の意)
- ④ 令和5年度より、指導者名と出品物の説明は記載しないこととする。

- (5) 模造紙は縦1091mm、横788mm程度の大きさのものを縦に使用し、「研究概要」を横書きで分かりやすく説明すること。
※高等学校についても、模造紙1枚とする。(会場の都合のため)
※模造紙にパソコン等で印字することは可とする。その場合は、20ポイント以上で行うこと。
※模造紙の資料とする写真やスケッチ等は効果的に使用すること。

- (6) 模造紙に添付する論文として、A4判400字詰原稿用紙(横書き用)に研究したことを各学年の制限枚数に従ってまとめること。
※小学校低学年の使用原稿用紙は、A4判でなくてもよい。
※論文は、学年を問わず手書きでもパソコン等でもよい。

- (7) (1枚あたりの文字数は400字に収まるようにする)
※中学校・高校については、パソコン等が望ましい。

- ※小学生は、表紙を除いて低学年12枚まで、中学年18枚まで、高学年24枚までとする。
- ※中学生は、表紙を除いて30枚までとする。
- ※高校生は制限なしとする。

※規格外の作品は、審査対象外とするので注意すること。

※参考文献は、論文に明記すること。
※具体的な商品名の記載はしないこと。(写真にも商品名やロゴが写らないようにする)

- (7) 資料は別に添付すること。
※生物(動物・植物)を資料として県展へ送ることは不可とする。

※大きさは、原則として80cm×45cm(長机の半分程度の大きさ)の面積内に展示できるもののみとする。

※上記範囲内に展示できない場合は、展示物を事務局で選択した上で展示する。

※過去に発表した模造紙そのものは提出しないこと。過去の模造紙を資料として提出する場合は、写真に撮るなどし、資料の一部として添付すること。

※展示会場の電源は使用できないので注意すること(発電機の持込も不可)。

- (8) 出品規格が遵守されていること。
- (9) 返送については、①着払いで返送、②表彰式の当日15時以降に直接引取る、のいずれかを明示して出品すること。

※①の場合は、返送用の宅配用紙を同封すること。

- (10) 出品目録は、支部長が必要事項を入力した後、9月29日(金)までに、大田市立大森小学校(to-ohmoris@ed.iwamigin.jp)へe-mailにて送付すること。

※出品目録を作成する際は、研究題目は模造紙に記されたものを正確に記すこと。

児童(生徒)氏名は旧字体や略字体、外字等にも注意すること。

※支部長は最終確認をし、間違いがないことを確かめてから発送すること。

◎出品点数の割り当て

支部名	小	中	計	支部名	小	中	計
松江	10	7	17+3	江津	3	2	5
安来	4	3	7	邑智	3	1	4+6
出雲	14	8	22	浜田	6	4	10
雲南	4	2	6	益田	4	3	7
大田	4	3	7+9	鹿足	3	2	5
仁多	2	1	3	隠岐	3	1	4+2
飯石	2	1	3	合計	62	38	100+20

会誌(第19号)原稿募集

実践報告、研究論文等形式は問いません。すぐに印刷にかけられる原稿(A4判 偶数枚 PDF等電子データ可)を下記の送付先に送っていただきますようお願いいたします。

(送付先)
〒699-2301 大田市仁摩町仁万176-2
大田市立仁摩小学校
県理研会誌事務局 大國 寛和 宛
TEL 0854-88-2629 FAX 0854-88-3193
Mail to-nimas@ed.iwamigin.jp